

立民代表選告示、4氏立候補

立憲民主党の代表選が19日に告示され、逢坂誠二、小川淳也、泉健太、西村智奈美の4氏が立候補した。10月の衆院選で選挙協力した共産党との関係などが争点になる。各候補の推薦人や個別政策をみると野党共闘へのスタンスの違いが浮かぶ。(1面参照)

4候補は19日、党本部で記者会見し、政策や党改革について説明した。

逢坂氏は共産党を含む選挙協力に「地域事情に配慮しながらできる限り(与党と)1対1の構図を作る」と説いた。小川氏は「野党は一本化する努力が必要だ」と触れた。

泉氏は「(参院選の)1人区では一本化を目指していくと明確にしたい」と強調した。西村氏は「選挙協力(は)自公政権の議席を一つでも減らしていくためには必要不可欠だ」と指摘した。

各候補とも共産党との選挙協力に関して、明確な方針を示さなかった。集めた推薦人や個別政策から立場

推薦人、共産との距離映す

立候補した4氏(敬称略)

逢坂 誠二 (62歳)	小川 淳也 (50歳)	泉 健太 (47歳)	西村 智奈美 (54歳)
おおさか・せいじ	おがわ・じゅんや	いずみ・けんた	にしむら・ちなみ
旧立憲民主党出身	結党の直前は無所属	旧国民民主党出身	旧立憲民主党出身
民主党政権で首相補佐官	民主党政権で総務政務官	現政調会長	民主党政権で厚労副大臣
衆院当選5回 北海道8区	当選6回 香川1区	当選8回 京都3区	当選6回 新潟1区
党内最大グループ「サンクチュアリ」が推す	中堅・若手を中心に支持を受ける	自身が率いる「新政権研究会」が基盤	首相元人元首相「国研」が支援

逢坂・西村氏 枝野路線継承か 小川・泉氏 保守層にも重点

の違いがみえてくる。

逢坂、西村両氏は旧立民出身者の推薦が多い。共産党との協力を進めた枝野幸男前代表の路線を引き継ぐとみられる。

逢坂氏は旧立民で政調会率いるグループ「国のかた

長を務めるなど枝野氏が重用した。自治労や日教組と合わせた連合傘下の官公労の組織内議員が多い最大グループ「サンクチュアリ」が支援する。連合のなかでも民間労組に比べ官公労は共産党との協力を理解がある。

西村氏は菅直人元首相が率いるグループ「国のかた

「研究会」を軸に推薦人をそろえた。ジェンター平等や多様性を訴える党の代表選に女性候補は必須との声に推されて出馬した。同グループも枝野氏に近い議員が多い。

一方で小川、泉両氏の推薦人には旧国民民主党の出身者や無所属を経た議員が

のグループとともに支援すると表明した。

泉氏はこれまでの党運営について「中道から穏健保守、リベラル保守などの層に訴えていく役割を十二分に発揮できなかった」と指摘する。共産党などとともに公開の場で官僚らを追及する「野党合同ヒアリング」の全面見直しを掲げる。

立民は旧立民と旧国民民主党の大半が合流して2020年に結党した。初代代表に旧立民の創設者の枝野幸男氏が就き、共産党との選挙協力を進めてきた。中道から保守を志向する議員が多い旧国民の出身者らに不満もあった。

衆院選で110議席から96議席へと議席を減らし、枝野氏が引責辞任した。共産党との協力を深めたために無党派層の一部が日本維新の会などに流れたとの分析がある。

共同通信社の出口調査で無党派層の比例代表の投票先をみると、立民は24・6%で17年衆院選の旧立民の30・9%より低かった。17年に8・5%だった維新は20・9%に伸びた。

目立つ。

小川氏はサンクチュアリの会員でもあるが、グループに支持の輪は広がらなかった。野田佳彦元首相や旧維新の党出身の重徳和彦氏のグループなどに支持者がいる。立候補を断念した大串博志役員室長が推薦人になった。

小川氏は18日の記者会見で「保守層からの親近感が必要だ」と述べた。

旧国民の幹部を務めた泉氏は同党出身者が中心のグループ「新政権研究会」を率いる。小沢一郎氏も自身